

ヲ筒ニ入、次關白ウチ給テ、又サイヲ筒ニ入、右大臣直退去、次料紙各前又持參シテ圓座ニ置也、料紙圓座已下撤シテ下座ヨリ退略○下

〔附〕意錢穴一 木棊子打
面打 紋打附

意錢ハ、ゼニウチト云フ、錢ヲ地上ニ投ジテ、勝負ヲ爭フ戲ニシテ、其法詳ナラザレドモ、後ノ穴一ノ類ナルベシ、

穴一ハ、地上ニ錢大ノ穴ヲ穿テ、此ニ錢ヲ投入シ、入りタルモノハ其所得トシ、外ヅレタルモノハ、更ニ他ノ錢ヲ以テ敵ノ指示スル所ニ隨テ之ヲ撃チ、中ツレバ勝トシ、中ラザレバ負トス、穴一ノ類ニ、木棊子打、面打、紋打等アリ、

〔倭名類聚抄四〕意錢攤字 後漢書注云、意錢世間云、世今之攤錢也、桂苑珠叢抄云、以手有所搓、謂之攤唐韻曰、擲音、諸何反、搓擲也、字亦作攤、世間云、馱、擲音、七何反、手攤錢也、訓毛無、

〔類聚名義抄八〕意錢世間云、セニ、ウチ、雜藝具、

〔伊呂波字類抄世〕意錢セニウチ 攤錢同

〔新編追加侍所〕一可停止博戲輩事嘉祿二

右同狀○嘉祿元年十月廿九日宣旨中略抑意錢之好者、餘戲之内也、當時濫吹起從斯事、一切加禁遏、同令斷罪者、

〔和漢三才圖會婚七〕意錢 和名世邇宇知俗云、穴伊知、穴擊之訛乎、

按、意錢俗云穴擊之類乎、錢擊之和名叶之、但錢攤之訓不叶之、今僮兒多弄之、二人或三人錢出合、互更擊之、橫引筋於地、撒錢、一錢有掌此名以之擊敵所指錢、中則爲勝、如誤中他錢、則此名爲負、初撒時

誤出筋外則此名爲負、

〔嬉遊笑覽四〕意錢は、○中錢をうち中る事とも聞ゆれど、和名抄に毛無とも訓せたるをみれば、うつ事とは異なるべし、もむは揉字などをもよみて、兩手にてするわざ也、されど攤うつと云事

手法

禁令

名稱